

銃砲刀剣類の登録

平成9年度の銃砲刀剣類の登録審査会が、次の日程で行われます。

日時 4月25日(金)、8月22日(金)、11月21日(金)、平成10年1月16日(金)の午前10時～12時と午後1時～2時30分

会場 県庁行政庁舎会議室 (新潟市新光町4-1)

- ①登録を受けようとする銃砲刀剣類
- ②銃砲刀剣類発見届受理証(所轄警察署発行)
- ③審査手数料1件につき5,900円(新潟県収入証紙)
- ④印鑑

今までお使いの電話帳を回収

NTTでは、新しい電話帳を4月上旬から4月末頃までにお客様にお届けする予定です。その際、今までお使いの電話帳は、地球環境保全の一環として、回収し紙資源のリサイクルに役立てています。配達員が新しい電

話帳を配布したときに、古い電話帳をお渡しください。お問い合わせ NTT電話帳お届けセンター

中小企業の設備近代化をバックアップ

新潟県と(財)新潟県中小企業振興公社では、「設備貸与制度」及び「設備近代化資金貸与制度」により、中小企業の皆さんの設備の近代化を支援しております。

中小企業の皆さんが導入を希望する設備を公社がかわって購入し、長期かつ低利により割賦販売またはリースするものです。設備近代化資金貸与制度

中小企業の皆さんが設備を導入する際、その購入代金の50%以内を県が無利子で融資する制度です。

21世紀の道路整備に向けた建議中間案を発表

建設大臣の諮問機関である道路審議会は、平成10年度からス

タートする新しい道路計画をつくるため、昨年5月に「キックオフレポート」を公表し、道路に関するいろいろなご意見や提案を、皆さんからいただいたま

もとに、道路整備の方向性や進め方等について、このほど、建議中間案としてまとめ公表しました。

ご意見を皆さんから募集することとし、そのご意見をふまえて6月下旬頃に建設大臣に建議する予定です。この建議中間案の概要版をご希望の方はお問い合わせください。

お問い合わせ 建設省新潟国道工事事務所調査課又は新潟県新潟土木事務所計画調整課

市民講座 「がん末期の痛み」

新潟大学医学部 222 52005

4月23日、25日に第44回日本麻酔学会が新潟市で開催され、その一環として市民講座を開催します。

参加費 無料
申し込み 往復はがきに氏名・年齢・住所を明記の上、〒951新潟市旭町通り1新潟大学医学部麻酔学教室内 学会事務局まで申し込みください。

交通事故相談所

新潟県交通事故相談所 285 5511
交通事故でお悩みの方は、交通事故相談所にご相談ください。お問い合わせ 新潟県交通事故相談所 (新潟市新光町4-1県庁舎内)

あなたが守る家族の命

日本赤十字社 231 3121
日本赤十字社新潟県支部では、心肺蘇生法などの「あなたが守る家族の命」救急法講習会を開催します。

日時 5月10日(土)午前10時～12時
会場 新潟県赤十字会館(新潟市関屋下川原町1-3-12)

内容 応急手当コナナ、炊き出しコナナなど
対象 一般、100人程度
参加費 無料
申し込み 5月9日(金)までに、日本赤十字社新潟県支部組織振興課へ

告知板

皆さんの情報も掲載しますので、ご希望の方は連絡してください。締め切りは発行日の20日前です。

日時 会場 内容 対象 申込み 問い合わせ

4月13日(日)に開催される第2回黒埼ロードリレー大会に伴い、総合体育館と多目的広場の間の道路が、当日の午前9時30分～午後1時まで通行止めになります。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。黒埼町体育協会

演奏会：4月29日(火)新黒埼おやこ劇場 低学年鑑賞例会「とびだせ!乱太郎」楽劇コースケ事務所公演 4月18日(金)午後6時30分開演 農村環境改善センター NHKの番組でおなじみの人気アニメ「忍たま乱太郎」のキャラクターが大乱言に登場します。乱太郎が大好きなチビッコも、はじめて狂言を見るお父さん、お母さんもみんなで楽しめるマンガ狂言です。

女子サッカーラブ員 募集 毎週水曜日 午後7時～9時 大野小学校体育館 小学生より大人までの女性FCミユール青木 379-2443

黒埼短歌会 募集 生涯続けられる最高の学習と思えます。泉井 377-2643

《人の動き》 2月末現在 (前月比) (前年同日比)

人口	24,800	(+10)	(+557)
男	12,160	(+2)	(+282)
女	12,640	(+8)	(+275)
世帯	7,353	(+8)	(+369)

2月1日～末日

出生	19	転入	66
婚姻	12	転出	69
死亡	6		

さて来月号では、新年度予算の記事でも紹介しました議会3月定例会(河内町長、初お目見え)の一般質問を中心にお伝えしたいと思います。



年金の誤算 企業を脅かす巨大債務の危機

日本経済新聞社編 日本経済新聞社 1996

昨年3月から6月にかけて、日本経済新聞の第一面に連載されたシリーズをもとに、大幅加筆された年金の本である。今年になって、社会保険庁から基礎年金番号のお知らせが来て、自分の年金を確認した人も多いはず。しかし、改めて年金について知りたいと思っても、なかなか本当の意味で『知りたいことを書いた本』はみつけれなかった。制度について事細かに並べてあっても、自分の年金がどこに属するかくらいしか答えてはくれない。

自分の世代は年金が受けられるのか、負担額はなぜ年々増えてくのか、年金基金の解散によって掛け金を下回る年金しか受けられない人がいるのはなぜか。このような疑問にこの本は答えようとしている。

- *国民年金の未加入者、未納者、免除者をあわせると対象者の3人に1人が年金を納めていない勘定になる。
- *低金利の現在でも基金の資産運用の予定利率は5.5%と決められている。
- *企業の基金の中には、負担する従業員を上回る受給者を抱えているところもある。等々

様々な矛盾を抱えて、赤字が増えていく。赤字は誰かが補填しなければならない。いまや企業の経営を圧迫するまでになっている。少子化が拍車をかける高齢化社会。リストラによる加入者の減少と受給者の増加。低金利・低成長時代の今、常に右肩上りの経済を前提にした制度自体に問題がありそうだ。現場の混乱を丹念に拾っていくことで、実感として現状が把握できる。最後に再生の条件と専門家による年金改革論を載せて、道を示している。

題材は固いけれども、ルポのように面白く読める。現状はもう変化しているのだろうが、社会がどう動き自分はどう動いたらいいのか、選択肢を与えてくれる本です。(中山佳奈恵)